

特集 がん医療において、精神科医に期待されるもの

がん医療に携わる心のケア従事者への教育

岡村 仁

がん対策基本法の制定により、がん患者に対する心のケアにさらなる関心が向けられるようになってきた。こうした心のケアを実践するためには、精神科医のみならず、がん患者に関わるすべての医療従事者の協働、すなわちチーム医療により展開することが必須である。言い換えると、がん患者のQOLを維持・向上させるためには、がん患者に関わるすべての医療従事者が患者の心の状態、精神的側面を理解し、それぞれの立場から対応していくことが重要であるといえる。しかし心のケアを専門としない医療従事者にとって、がん患者が抱える心の問題、精神的側面をどのように理解し、対応していけばよいかについては戸惑うことが多い。このため、精神科医の大きな役割の一つとして、心のケアに携わる医療従事者に対して知識や技術を提供することがあげられる。そのための教育ツールとして、現在では書籍やインターネット、研修会を有効利用できるようになってきている。しかし一方で、こうした教育を積極的に行っていくための精神科医の育成、および教育プログラムの作成や教育体制の整備は未だ不十分であり、今後の課題である。

<索引用語：がん，教育，心のケア>

1. はじめに

「がん対策推進基本計画」が策定され、重点的に取り組むべき課題の一つとして、がん患者の心のケアの実施がとりあげられた。がん医療の現場では、以前よりがん患者の精神面には関心が向けられており、がん患者の心の問題や精神的側面を評価し、それに対応することへの重要性は認識されていたが、それががん患者・家族からも強く求められた結果といえる。

しかし、がん患者に対する心のケアを実践するためには、精神科医のみならず、がん患者に関わるすべての医師、看護師、心理療法士、ソーシャルワーカー、理学療法士や作業療法士といったリハビリテーションスタッフなど、さまざまな職種の協働、すなわちチーム医療により展開することが必須である。言い換えると、がん患者のQOLを維持・向上させるためには、がん患者に関わるすべての医療従事者が患者の心の状態、精神的側

面を理解し、それぞれの立場から対応していくことが重要であるといえる。しかし心のケアを専門としない医療従事者にとって、がん患者が抱える心の問題、精神的側面をどのように理解し、対応していけばよいかについては戸惑うことが多いといわれている。それは、がん患者の心のケアを行っていくためには、がんに特徴的な心の動きや精神症状の理解だけでなく、がん患者が抱える可能性のあるうつ病、認知症といった精神疾患の理解が必要であること、さらには患者・家族とのコミュニケーションスキルが要求されることによる。

こうした心のケアに携わる医療従事者に対して、知識や技術を提供するのは精神科医の大きな役割の一つであると思われる。ここでは、がん患者の心のケアを行う医療従事者に対して、精神科医がどの程度までの知識や技術を、どのような手段を用いて提供すればよいのかを述べ、心のケア従事者への教育の在り方・進め方について考えてみたい。

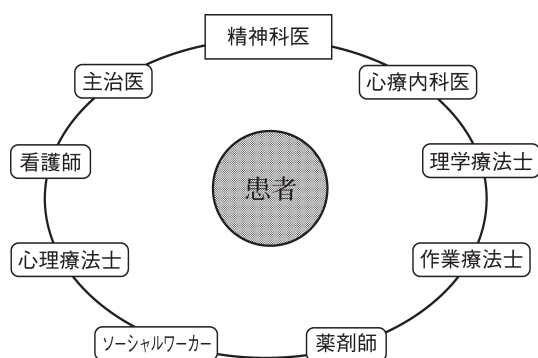


図1 がん患者の心のケアにおけるチーム医療

2. がん患者の心のケアにおけるチーム医療

がん患者やその家族はさまざまな精神心理的苦痛を抱えていることから、その問題に対して適切なサポートが提供されることが必要である。そのためには、精神科医だけでは不十分で、がん患者に関わる全ての医師、看護師、心理療法士、ソーシャルワーカー、作業療法士をはじめとするリハビリテーションスタッフなど、さまざまな職種の協働、すなわちチーム医療により展開することが必須であることが強調されている（図1）。

すなわち、がん患者のQOLを維持・向上させるためには、精神科医を中心として、がん患者に関わるすべての医療従事者が患者の心の問題、精神的側面を理解し、それぞれの立場から対応していくことが必要であり、各領域の医療従事者たちもまた、そのことを認識している。しかし一方で、こうしたがん患者の心理的ケアに関する教育を受ける場は乏しく、教育体制もないといった問題点も指摘されている。

ここでは他職種の例として、リハビリテーションスタッフと薬剤師を取り上げ、それぞれを対象に行った、がん患者の心のケアに関する我々の調査結果の一部を提示したい。

1) がんリハビリテーションに関する実態調査

平成17年12月までに財団法人日本医療機能評価機構における病院機能評価の認定（一般病院、

長期療養病院、複合病院）を受けた1693施設を対象に、リハビリテーションの実施状況に関する調査票を、各医療機関の「リハビリテーション担当者」宛に郵送し、平成18年3月31日を期限として返信を求めた。

1059施設から回答があり、1045施設が最終解析対象となった。調査項目の中の「リハビリテーションの目的と実施内容」に関して、リハビリテーションの目的として「心理的サポート」を挙げた施設は54.4%でみられたものの、実際に実施していると回答したのは8.0%であった。本結果より、リハビリテーションの目的の一つとして心のケアは重要であると捉えられているものの、具体的にどのように対処してよいか分からないと感じている施設が多い現状が明らかとなった。

2) 薬剤師におけるがん患者の心のケアに対する意識

薬剤師が、がん患者の心のケアをどのように考えており、またどの程度の関心や興味を持っているのかを明らかにすることを目的に調査を行った。方法は、A県薬剤師会が主催する研修会において、筆者が「がん医療における心の医学」と題する90分間の講義を行った後、参加者に対して〈がん患者の心のケアに関して興味のあること〉〈がん患者の心のケアについて苦労していること〉〈心のケアについて知りたいこと〉の3点について、無記名による自由記載方式のアンケート調査を実施し、各項目ごとに結果をまとめた。

その結果、31名から調査結果が回収された（回収率：62%）。それぞれの項目に関する結果は以下のようにまとめられた。

〈がん患者の心のケアに関して興味のあること〉

- ・がん患者の心理過程
- ・各病期における対応の違い
- ・患者が薬剤師に期待していること

〈がん患者の心のケアについて苦労していること〉

- ・患者がどのような心理状態であるのかを判断すること
- ・薬剤師としてどこまで踏み込んで患者の気持ち

と向き合えばよいか

〈心のケアについて知りたいこと〉

- ・患者とのコミュニケーションに関すること

以上の結果より、薬剤師はがん患者の心の状態や心のケアには関心があるものの、それらに関する知識が乏しいと感じており、がん患者とどのようにコミュニケーションをとればよいか悩んでいることが明らかとなった。しかし、薬剤師の立場としてがん患者の心のケアに何らかの形で携わりたいという思いは強く、教育を受ける機会を望んでいることも示された。

3. 教育に利用できるツール

こうした現状を踏まえ、精神科医は各職種に対して教育・指導を行っていく必要があるが、その手段として教育ツールを用いることは有用であろう。現在のところ、有効に利用できると思われるツールをいくつか紹介する。

1) がん医療を専門とする医師の学習プログラム e-Learning

e-Learning とは、ネットワークを活用した教育や研修のことで、利用者はパソコンを使い、好きなときに学ぶことができるというメリットがある。

本 e-Learning の作成は、財団法人がん集学的治療研究財団が厚生労働省の委託を受け行ったものであり、がん医療に従事する医師を対象とはしているが、その他の職種のがん医療従事者の教育にも十分に利用できるものである。この中の一つに「精神腫瘍学分野」があり、その講義内容は以下のとおりとなっている。

- ・精神腫瘍学概論
- ・精神症状の評価とマネジメント I (がんの経過における正常反応と精神症状)
- ・精神症状の評価とマネジメント II (不安、不眠、抑うつ)
- ・精神症状の評価とマネジメント III (自殺・希死念慮)
- ・精神症状の評価とマネジメント IV (せん妄)

- ・精神症状の評価とマネジメント V (終末期)
- ・精神症状の評価とマネジメント VI (薬物療法)
- ・精神症状の評価とマネジメント VII (精神療法)
- ・家族・遺族ケア
- ・精神腫瘍学における研究
- ・精神腫瘍学における教育
- ・がん医療におけるコミュニケーションスキル
- ・心理社会的要因とがんの罹患/生存
- ・高齢者/認知症

2) 精神腫瘍学ポケットガイド「これだけは知っておきたいがん医療における心のケア」(創造出版：2010)¹⁾

がん医療に関連する職種、すなわち医師や看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、心理技術職、医療ソーシャルワーカーなどに、がん患者の心のケアがどのようなものなのか、そのあらましを伝えることを目的に作成されたポケットガイドである。特に、コミュニケーションや精神症状など、臨床の場で即実践が求められている内容にしばって解説が行われている。その内容について、目次からタイトルのみを抜粋する。

- ・精神腫瘍学とは何か
- ・がんの治療の流れと心のケア
- ・がんに対する通常の心の反応
- ・基本的なコミュニケーション・スキル
- ・心のケアの考え方
- ・精神症状の基本
- ・せん妄への対応
- ・認知症への対応
- ・うつ病への対応
- ・適応障害への対応
- ・終末期の精神医学的問題
- ・記録の書き方
- ・チーム医療
- ・精神腫瘍医へのつなぎ方
- ・情報

3) 精神腫瘍学クイックリファレンス（創造出版：2009）²⁾

総合病院で診療に従事している精神科医師を対象にしたものではあるが、基本的な内容のことが幅広く書かれており、こころのケアを実践していく上で十分に参考になるものである。上記のポケットガイドでは少し物足りない、あるいはもう少し詳しく教育したいという場合に有用である。

ツールとは少し異なるが、日本サイコオンコロジー学会が主催している研修会もいくつかあるので、簡単に紹介したい。

4) 日本サイコオンコロジー学会主催心理職対象研修会

がん患者・家族の心のケアに携わる心理職を対象に、毎年1回、日本サイコオンコロジー学会総会の前日に開かれている研修会である。ここでは、サイコオンコロジーおよび医療において最低限必要な医学的・心理学的知識の講義、およびグループワークなどが行われる。

5) 日本サイコオンコロジー学会主催看護師対象研修会

がん患者・家族の心のケアに携わる看護職を対象に、毎年1回、日本サイコオンコロジー学会総会の前日に開かれている研修会である。ここでは、看護師のコミュニケーションのスキルアップを目指すことを目的としたグループワークが行われる。

6) 医学生・研修医のためのがん医療における心の医学セミナー

サイコオンコロジーに関心のある医学生や研修医を対象に、年1回開催されているセミナーである。ここでは、サイコオンコロジーの紹介から始まり、心のケアの実際、がん告知に関するグループディスカッションなどが行われる。

4. 今後の課題

今後の課題として、まずがん医療に携わる精神科医の育成があげられる。今回述べてきたような、がん患者の心のケアに関わる医療従事者に知識・技術を提供するためには、まず教育を行うことができる精神科医を増やしていくことが急務といえる。そしてその上で、心のケアに関わる医療従事者に対する教育プログラムの作成と、教育プログラムを用いた教育をどのように実施していくか、その教育体制の整備が重要である。

多くの精神科医ががん患者の心のケアに関心を持ち、自身が心のケアに直接関わる機会は少ないとしても、がん医療に携わるさまざまな医療従事者への教育を通してがん医療に関与していただけることを願っている。

文 献

- 1) 小川朝生，内富庸介編：これだけは知っておきたいがん医療における心のケア。創造出版，東京，2010
- 2) 小川朝生，内富庸介編：精神腫瘍学クイックリファレンス。創造出版，東京，2009

Education for Medical Professionals Who Deal with Mental Care of Cancer Patients

Hitoshi OKAMURA

Graduate School of Health Sciences, Hiroshima University

With the recent enactment of the Cancer Control Act, mental care for cancer patients has become the focus of increasing interest. For the practice of such mental care, it is essential not only to depend on psychiatrists but also to utilize the collaboration of all healthcare professionals concerned with cancer patients, in other words, employ the concept of team medical care. Put in another way, it is of prime importance for all healthcare professionals concerned with cancer patients to understand the state of mind and psychological aspects of a patient and to try to cope with the situation from their respective standpoints, in order to maintain and improve the QOL of the patient. Nevertheless, it is not uncommon that healthcare professionals not specialized in mental care are somewhat at a loss how to identify, understand and cope with the mental problems and psychological aspects facing cancer patients. One of the major roles to be assumed by psychiatrists for this purpose is to provide knowledge and techniques for other healthcare professionals who are involved with cancer patient mental care. Effective educational tools currently available for this objective include books, the internet and in-service training. However, as tasks for the future, training up psychiatrists for the active education of other healthcare professionals, the formulation of pertinent educational programs, and refurbishing of the relevant educational system are yet to be fulfilled.

<Author's abstract>

<Key words : cancer, education, mental care>
